絵本の中の「障がい児・者」

マークの見方・内容

● 「障害」名が出てくるもの、内容から何らかの「障害」とわかるもの

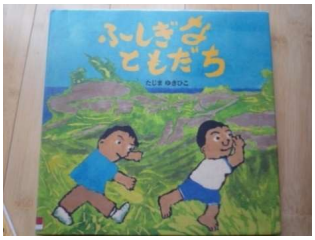
○ 子どもの特性や「問題」とされてしまうような行動をとる子が出てくるもの
病気など

■ 児童書（絵本ではない）

☆ 作品の中のあるページの文章の抜き書き

コメントの追加 [長塚1]:

●１　ふしぎなともだち



作　者：たじまゆきひこ（田島征彦）
　絵　：たじまゆきひこ
発行所：くもん出版
発行日：2014 年６月　初版
第　刷：2015 年初版第５刷

【内　容】
　２年生の冬休みに「このしま」に引っ越してきた「おおたゆうすけ」が語る形の、自閉症の「やっくん」とぼくの話。
　同じ言葉を繰り返したり、６年生なのに１年生をこわがったりするやっくんだが、気持ちはとてもやさしく、思いやりがある。２人は大人になって、それぞれ働き始めた。ぼくは郵便局、やっくんは町の作業所でメール便の配達（自転車で）。

☆中学校の入学式。やっくんは、やっぱりきんちょうして大きな声でさけびだした。先生がとんできたが、、みんなで先生をとめた。ぼくたちは、やっくんをむりにとめるともっとたいへんなことになるのをしっていた。
☆ことばではなしができないのに、心がわかりあえる。やっくんはぼくのふしぎなともだちだ。

○１　おかあさんげんきですか

作　者：　後藤竜二
　絵　：成田美穂
発行所：ポプラ社
発行日：2006 年４月
第　刷：１刷

【内　容】
　「ぼく」は、学校で母の日に向けてお母さんに手紙を書いた。その中身は、「いいたいこと」だ。その１―お母さんの口癖「わかった？」　その２－僕の部屋を勝手に掃除しないでー思い出いっぱいのものがある。　おまけーあんまりがんばらないで。

☆おこづかいをつかいはたしてしまってビンボーなので、カーネーション１本とお茶わんあらいけん
　をおくります。ありがとう！　（手紙のしめくくり）

●２　私の足は車いす

作　者：フランツ・ヨーゼフ・ファイニク（１９６６年オーストリア生）
　絵　：フェレーナ・バルハウス（１９６１ドイ年ドイツ生）
訳　者：ささきたづこ
発行所：あかね書房
発行日：2004年 10 月
第　刷：

【内　容】
　車いすのアンナは母に頼まれてスーパーへ買い物へ。でぶっちょジギーが支援してくれたおかげでアンナは変わっていく。変化したアンナは人にからかわれても気にせず、おつかいもできる。他の人に助けを頼むこともできる。おまわりさんにお願いもした。

☆（アンナ）はちょっとちがってるよ。ぼくもふとってるから　ふつうとはちがってるんだ。ぼくたち　ちょっとだけふつうとはちがうんだよ。だけど　ちがってもいいのさ。ちがってるのって　ほんとうはとくべつなことなんだから。

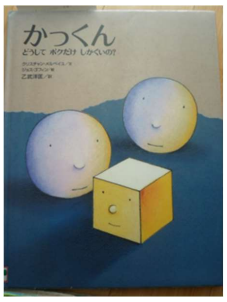
●３　なまけてなんかない　ディスレクシアの男の子のはなし

作　者：品川裕香
　絵　：北原明日香
発行所：　岩崎書店
発行日：2017 年４月

【内　容】
　　知的には問題がないのに、読み書きがスムーズにできないディスレクシア。りんぞうくんは小学校に入学してそれがわかり、「学び方が他の人と違う」ことがわかり、先生も理解してくれるようになった。

☆おれ、ばかだぁ　/ じ　わからないよう　/　ぜんぜん　できないよう　/　ようちえんに　もどりたいよう
☆もう　だめだよ
☆りんちゃん　しんどかったね　/　がんばってるね　/　せんせいにも　できることがないか　/ べんきょうするね
☆りんぞうは　まなびかたが　ちがうみたいなんです

○2　かっくん　どうしてボクだけしかくいの？



作　者：クリスチャン・メルベイユ（年生）
　絵　：ジョス・ゴフィン（年生）
訳　者：乙武洋匡
発行所：講談社
発行日：2001 年４月
第　刷：2001 年５月　２刷

【内　容】
　みんなが真ん丸のまんまる家族に赤ちゃんが生まれた。その子は四角だった。名をかっくんという。大きくなっても四角のかっくんとみんなは出かけた。かっくんは一番後ろ。突然あたりが暗くなってみんなが怖がったとき、かっくんの体が光っていたので、今度はかっくんが先頭で帰ることになった。

☆かっくんはあいかわらずしかくいままだし、まんまるの子どもたちもまんまるのまま。いろいろいるよ。まんまる、ふとっちょ、しかくに　おちび。みんなみんなちがうけど、みんなでみんなであそぼうよ。

●4　かたあしだちょうのエルフ

作・絵：おのきがく（1924 年生）
発行所：　ポプラ社
発行日：1970 年９月
第　刷：1992 年 10 月　第 77 刷

【内　容】
　アフリカの草原にすむダチョウのエルフはライオンと戦った時片足を食いちぎられてしまった。はじめのうちは、他の動物が助けてくれたが、次第に自分たちの家族のことだけでも大変なので、みんなから忘れられていった。
　弱っていくエルフはある日クロヒョウから動物の子どもたちを守るために大きな木になって守り抜いた。その木の形は片足のエルフと同じ。そして顔の真下には池ができていた。それはエルフの涙か？　一動物達は泉の周りでいつも楽しくくらした。

☆エルフは、わかくてつよくてすばらしく大きなおすのだちょうです。
☆エルフはとても子どもがすきでした。
☆ひょこたんひょこたん一日にいくらもあるけないエルフはひからびた木のねっこや、なにかのほねや石ころなんかをたべてすごす日のほうがおおくなりました。

●5　福祉紙しばい　白いつえのおじいさん

脚本・画：福田岩緒　（１９５０年生）
製　作：仙台市社会福祉協議会
発行所：　童心社
発行日：1996 年３月

【内　容】
　ゆうたとしんじはぶつかってしまった白杖のおじさんの後を追い、道にある「危険」なものを除いて行った。おじさんは、タクシーに乗り、手を振ってくれた。

☆「これも、あぶないよな…。」しんじがさんりんしゃをどかした。
☆「（おじさんはタクシーに乗っていった）くるまの中で、おじさん手をふったよな？」しんじがいった。…「もしかして、ぼくたちのこと、わかってたんじゃない？」

○3　びょういんの木

作・絵：岡村理（年生）
発行所：汐文社
発行日：1996 年２月
第　刷：

【内　容】
　1983 年生まれの岡村さんは、小児喘息で入院し、小学３年のとき院内学級へ入級した。彼は、「ひょうたん小枚岡ぜんそく」という公害手帳を持ち、自らの生活の中での体験や意見を絵と文に表現した。
「びょういんの木。大きな大きな木。あなたは～？」という質問形式で木が答える形で話はすすむ。何を悲しむの？　どんな歴史をみたの？　だれに植えられたの？　何を見つけたの？　何を応援するの？なにを見守るの？　何を聞いたの？　何をささやくの？　何を歌うの？　何を見たの？　何をほほえむの？

☆びょういんの木。大きな大きな木。あなたは何を悲しむの？
☆病気になったら、車ですぐ病院にいける。昔だったら治らなかった病気も治る。医学も世の中も進歩した。それはすばらしいことさ。でもね。悲しいことも多くなったよ。青い空青い海。どこにいってしまったんだろう。
☆きっときっとすばらしい明日がある。

●6　ベルナの目はななえさんの目

作　者：郡司ななえ
　絵　：織茂恭子
発行所：　童心社
発行日：1996 年７月
第　刷：2002 年３月　第６刷

【内　容】
　作者は２７才の時ベーチェット病で失明した。中途失明のななえさんは、夫こうじさんが出勤すると独りぼっちなので子どもがほしい。しかし、白い杖で歩くのが下手なので外へも出たくない。こうじさんの勧めで盲導犬の訓練所へ通い、ベルナとペアになった。犬の同伴を電車やバスやお店で断られたり、失敗したこともあったけれど、ななえさんとベルナは仲良くなり、ななえさんは歩くことが大好きになった。もうすぐ赤ちゃんも生まれる…。

☆ななえさんとこうじさんはなかのよいふうふです。ふたりはめがみえません。
　でも、ななえさんのめは　まるで　みえるひとのように　ぱっちりと　ひらいています。
☆（盲導犬の訓練中雨に降られて訓練所に帰ってびしょぬれのベルナを拭きながら）「ベルナはわたしの　めだからね。かぜをひいたら　たいへん　たいへん」

○4　いい子のなれっていわないで

作　者：Ｍ・Ｐ・ダニノス（年生）
　絵　：市川里美
訳　者：わたなべやす
発行所：　冨山房
発行日：1986 年６月、1992 年３月　第２刷

【内　容】
　学校の通知表に「落ち着きがない。授業中にいたずら書きが多い！」と書かれるぼんやりしているジャン。ジャンは作者の夫の兄であり、1945 年に自動車製造会社ファセル・ヴェガ社を作り、1961 年まで社長であった。「学校で成績がよくないとしてもそんなにがっかりすることはない。あとになってとりもどせばいいんだ。」というメッセージが込められている。

☆学校のべんきょうさえなかったら、どんなにいいだろう。学校へいくのは、きらいじゃない。なかよくしてるともだちがいる。
☆こまったことに、ジャンにはわるいくせがあった。いたずらがきだ。

05　みんなともだち

作　者：中川ひろたか（1954 年生）
　絵　：村上康成（1955 年生）
発行所：童心社
発行日：1998 年１月
第　刷：2008 年３月　第 23 刷

【内　容】
　園生活が終わる年長の子どもたちが主人公。

☆がっこういってもずっとともだち。
☆みんなともだち　ずっとずっとともだち
☆おとなになってもずっとともだち。
☆みんないっしょにおおきくなった。

06　中田くん、うちゅうまで行こ！

作　者：さえぐさひろこ
　絵　：佐藤繁
発行所：童心社
発行日：2009 年 11 月
第　刷：

【内　容】
　大きな声が出せない高橋さん。「きょうは、大きな声だしたつもりやったのに」…その彼女とお調子者の中田君が偶然公園で出会った。二人は手袋を片方ずつ交換してブランコに乗って”宇宙“へ行った。中田君の手袋は、今度お母さんになる人が編んでくれたものだ。

☆先生が、「答えはおうててもも、高橋はもっと大きな声ださな」って、いらいらしたように言わはった。先生、わたしきのうの夜、がんばって予習してんよ……。
☆今日は、大きな声だしたつもりやったのに……。大好きなクリームシチューやのに、あんま
り食べたない。ひょうきんものの中田くんは、きょうもまたにやにやしながらおかわりしてる。
　中田くんは、のんきでええなあ。
☆中田くんは、どんなときもひとをばかにせえへん。

07　ともだちのつくりかた

作・絵：たかいよしかず（1961 年生）
発行所：大日本図書
発行日：2016 年３月

【内　容】
　大学生のときに作者の心の中にあった気持ちを本の形にしたもの。教育実習で母校の中学校で中学１年生に美術の授業をした一子どもたちにとって教科の大切さは２割で、あとの８割はちゃんと子どもたちと話ができる先生が必要だと感じた。

☆ともだちはいっしょうのたからものです。
☆ともだちをつくるときにたいせつなことってなんだとおもう？
☆よろこんでもらうとうれしくなるよ！
☆みんなでいっしょにするってうれしいよ！
☆ぼくは、ひとがよろこんでくれるとすごくうれしいよ！そんなじぶんのことがすきだって、みんなにもしってほしいな。
☆ぼくのともだちづくりにたいせつなことって、じぶんが『ともだちになりたい』っておもわれるひとになって、それから『ともだちになろう』ってわらいかけることなんだ。

08　わたしのひみつ

作　者：石津ちひろ（1953 年生）
　絵　：きくちちき（1975 年生）
発行所：　童心社
発行日：2014 年１１月

【内　容】
　鉄棒が苦手で給食が半分しか食べられず、鍵盤ハーモニカは上手にひけず、時々仲間はずれにならアルケるし…されるだけど、塀の上なら歩けるし、りんごなら続けて３つ食べられるし、知っている歌は元気に歌える、アリさんとは仲良く遊べる。計算は間違えるけど、地面に大きな絵が描ける。

☆わたしね　てつぼうは　にがてなの
　だけど　へいのうえなら　ねこみたいにあるける
☆わたしね　さんすうのけいさんは　すぐにまちがえてしまうの
　だけどこんなにおおきなえがかける

●7　わたしたち手で話します

作　者：フランツ＝ヨーゼフ・ファイニク
　　（1966 年オーストリア生）
　絵　：フェレーナ・バルハウス（1951 年ドイツ生）
訳　者：ささきたづこ
発行所：あかね書房
発行日：2006 年１月

【内　容】

　耳の聞こえないリーザに（公園で）手話で話しかけてきたトーマス。トーマスの両親は耳が聞こえないため家ではいつも手話をつかっている。トーマスは親の「手話通訳」をしている。二人が手話で話しているのを見て周りの子どもたちは、うるさい中でも話ができる手話を覚えようと言い出す。みんなでトーマスの家へ行き、耳の聞こえない人の暮らしを体験する。友達のいなかったリーザの家へトーマスが遊びに来た。二人だけの秘密＝「3時にベルを鳴らすという約束」に従って家へ来たトーマスとそれをわかっていたリーザにお母さんはびっくり。

☆自分のあだなを手の動きであらわすなんて、おもしろそう。みんなはすぐに、まねをすることにしました。
☆手で話せると、べんりだね。ぼくも、おぼえようかな。
　みんなもうなずいて、まねをして手を使って話をはじめました。

●8　ボスがきた

作　者：福井達雨（1932 年生：滋賀県）
　絵　：竹内雅輝（止揚学園園生）
発行所：　偕成社
発行日：1980 年４月

【内　容】

　止揚学園で飼っていた「園長」という名前の犬が死んだあと、子どもたちから犬を飼ってほしいという要求があり、コリー犬をもらってきて「ボス」と名付けた。最初は怖がっていた竹内くん（知的には３才くらい）はだんだん慣れてきて抱っこまでできるようになり、絵もたくさんかくようになったが、ボスは 1978 年のある日天に召されてしまった。
☆ボスは、いまごろひとりぼっちで「ワン、ワン」ないているのかなあ。
☆ぼくかて、ひろちぼっちだったらさびしい。

●9　こわいことなんかあらへん

　編　：福井達雨（1932 年生：滋賀県）
絵・字：馬嶋克美：（園生：重い知恵遅れ）
発行所：偕成社
発行日：１９８１年1月　１刷
第　刷：1981 年３月　2刷

【内　容】

　福井の息子：生（いくる）がよく親に話していた言葉を文章にしたもの。生は、障害者の立場、他者の立場から考えられる子である。（あとがき「たすけることあらへん」より）

　生と 12 才のやよいちゃんは同じ小学 1 年生。そのやよいちゃんのやさしさ、怖くも汚くもないことを伝えてくれる。障害児も「みんなおなじ人間やものなあ。」と

☆「こわい」「きたない。」「いっしょにあそんでやらへん。」「あほとあそぶとあほになる。」「学校にこんといて。」みんなに、こういっていじめられるんや。ぼくがいわれたらいややなあ。

☆みんなだって、「いっしょに学校にこんといて。」といわれたらいややろう。

●10　海くん、おはよう　（写真と文章）

作　者：西原理乃（姉ｱﾔﾉ:1982 年生）
発行所：
発行日：1999 年４月　１刷
第　刷：1999 年９月　７刷

【内　容】

1991 年４月弟海（カイ）くんが１才７か月の時、保育園で洗濯機に転落し、人工呼吸気を付け寝たきりの生活になった。1998 年９月、9才になった海くん。

☆わたしは、海くんにかわってみなさんにお伝えしたいことが二つあります。一つめは、自分の命、人の命を大切にしてほしいということです。息をすること、笑うこと、うんちをすること、あくびをすること、生きているということは本当にすばらしいです。

☆二つめは、みんなにどんな小さなことでもいいから夢を持ってほしいということです。

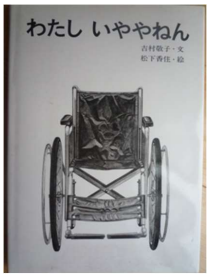
●11　千曲川のほとりで～私の学童疎開、上山田ホテル～

作　者：今西美奈子（1934 年生）
　絵　：金山崇
発行所：まごころの集い社
発行日：2016 年２月

【内　容】
　1945 年、当時日本にたった 1 校だった障害児学校（創立 1932 年）都立光明学校の集団疎開先がやっと決まった。長野県上山田温泉の村長＆上山田ホテル経営者の方が自分のホテルで受けれてくれた。そこに転校したのがポリオのため足が不自由だった 10 才の美奈子さんだった。1949 年５月やっと東京の校舎と寄宿舎が完成して引き上げとなった。2017 年５月ホテル内に集団疎開記念碑が建立された。

☆温泉街の他のホテルや旅館が次々と客を迎え入れている中、上山田ホテルだけは光明学校がホテルの一部を使っていたために満足に復興できなかったにもかかわらず、温かく見守ってくれたホテルの皆さん、孫亮さんはじめいつもやさしかった村の人たち大勢の方々が「元気でね、また遊びにいらっしゃい」と汽車が見えなくなるまで見送ってくださいました。

●12　わたし　いややねん

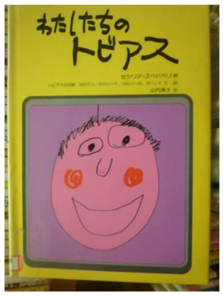


作　者：吉村敬子（1956 年生）
　絵　：松下香住（1955 年生）
発行所：偕成社
発行日：1986 年 10 月

【内　容】
　みんながじろじろ見るからでかけるのがいやだという手足に障害があり、車いす使用の著者が人間としての叫びを素直につづっている。

☆わたしでかけるのがいややねん。
☆ひとのようさんいてるとこきらいや。
☆みんなじろじろ見るからいややねん。
☆わたし宇宙人とちがうでエ。
☆（先生は強い心を持てというが）そやけど、なんでわたしが強ならなあかんねんやろ――か。

●13　わたしたちのトビアス

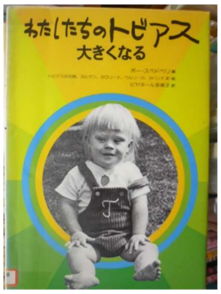


　編　：セシリア＝スベドベリ
訳　者：山内清子（1931 年生）
発行所：偕成社
発行日：1978 年 10 月
第　刷：2006 年２月　63 刷

【内　容】
　ダウン症の男の子トビアスの兄姉が見たこと、感じたこと、考えたことをありのままに記したスウェーデンの本。母セシリアは子どもたちに親としてありのままの真実の姿を見せている。

☆（私たち 4 人兄姉に弟が生まれた）でも、ママの声はちっともうれしそうではありません。弟は普通の子どもにはならないだろうというのです。障害児になるのだそうです。…略…しばらくして、わたしたちは障害児ってなんだろうと、かんがえはじめました。
☆トビアスに手がかかるなら、わたしたちみんなで、てつだうのがあたりまえでしょう。
☆ふつうの人もふつうでない人もいっしょにいるのが、あたりまえだと思います。

●14　わたしたちのトビアス　大きくなる



　編　：ボー＝スベドベリ（年生）
文・絵：トビアスの兄姉：ヨルゲン（１８才）、カロリーナ（13 才）、
　　ウルリーカ（11 才）、ヨハンナ（10 才）
訳　者：ビヤネール多美子
発行所：偕成社
発行日：1979 年 11 月、1998 年２月　31 刷

【内　容】
　トビアス２歳のとき母が死去。兄や姉、父ボーが協力してトビアスの成長を助ける。トビアスにはたくさんのあだ名がある。（スウェーデンではかわいい子にはあだ名がいっぱいということわざがある。）障害児もゆっくり成長して、できることを増やしていく―手の動き、食べること、トイレ、話すことなど。

☆まずたいせつなことは、手助けをするわたしたちにトビアスが安心感をもち、愛されているんだと感じることです。
☆もらったり、あげたりすることは、他の子どもたちといっしょに遊ぶための基本になり…大きくなって学校や社会でまわりの人と助けあって生きていくための土台にもなります。

●15　さっちゃんのまほうの手

作　者：たばたせいいち、先天性四肢障害児父母の会
　　のべあきこ、しざわさより　共同制作
発行所：偕成社
発行日：1985 年 10 月

【内容】
　さっちゃんの右手には指がない。すみれ組のさっちゃんは、ままごとでお母さんになれないと言われて幼稚園を飛び出した。そのまま帰宅し、お母さんになぜ自分の手は「みんなとちがうの？　みんなみたいにゆびがないの？」と問う。やがてお母さんが出産、父から「さちこはすてきなおかあさんになれる」と言われた。

☆（母）「さちこのてはね、しょうがうせいになってもしまのままよ。ずっといまのままよ。でもね、さっちゃん。これがさちんこのだいじなてなんだから。おかあさんのだいすきなさちこのかわいいかわいいてなんだから……」
☆（父）「こうしてさちことてをつないであるいていると、とってもふしぎなちからがさちこのてからやってきて、おとうさんのからだいっぱいになるんだ。さちこのてはまるでまほうつかいだね。」

●16　わたし、耳がきこえないの　（写真と文章）

作　者：トーマス・ベリイマン（1941 生）
訳　者：石井登志子（1944 生）
発行所：偕成社
発行日：1987 年 10 月

【内容】
　写真絵本。6 才のカロリーナ（リーナ）は耳が聞こえない。毎日タクシーで保育園へ行く。そこは耳の聞こえない友達ばかりいて、手話で話をして 1 日を過ごす。歌も手話で、お店屋さんごっこもやる。毎週火曜日は 6 歳児たちは学校に行く。（なれるため）　耳の不自由な子どもの学校だ。兄マルカスも耳が聞こえないので、文字電話を使って友達とやり取りする。帰宅するとリーナは耳の不自由でない友達と遊ぶ。9 月からは学校だ。
☆保育園でのリーナの仲間は 9 人。耳がほとんど聞こえない友だちばかりです。先生も友だちもお父さんもお母さんもみんな、手や指を使ってはなします。これを手話といいます。手話は、耳の不自由な人たちのことばのひとつです。

●17　みんなみんなぼくのともだち

　文　：福井義人
絵・字：高田真理子、竹内正輝、堀晋輔、馬嶋純子
　編　：福井達雨
発行所：偕成社
発行日：1980 年５月　１刷
　　1981 年５月　５刷

【内容】
小学 3 年生のよしとくんは算数が苦手。父母と思い知恵遅れの子どもたちと一緒に止揚学園で生活している。だから、「アホな子といっしょうにいるからアホになる」とからかわれるが気にせず、園の子どもたちのよさを訴える。

☆お母さんは、「さんすうは５てんでも、こころのやさしいいい子になってほしい。」といったんや。
☆からだがよわくても、ちえがおくれていても、どんな子どもでもみんなおなじ人間。うつくしい心をもった人間や。そして、ぼくのともだちや。だから、ぼくわるくちをいうともだちを「かわいそうやなあ」とおもってるんや。

●18　わたしたちのトビアス学校へいく

文・写真：ボー・ズベドベリ　（1934 年生）
　絵　：兄姉たち
訳　者：オスターグレン晴子
発行所：偕成社
発行日：1998 年２月

【内容】
　スクールタクシーがトビアスを迎えに来て登校。通うのは特殊学校（トビアスが楽しく学校生活を送れるように選んだ）　トビアス 5 才の時パパは 45 才で再婚。ママは 32 才。ヨルゲン 20 才、義姉ラグンヒルドは６才。トビアスのクラスは先生２人、生徒６人。トビアスに障害を持つ友達ができた。学童保育では普通の学校の子と一緒。
　　24 才になったトビアスは、授産所で仕事をしている。簡単な組み立て詰め込み作業、大きさによる分類作業など。苦手なのは、①大きな音　②荒っぽい言葉で話しかけられること、③4 人以上のグループにいること。好きな事は、自分の部屋の宝物、散歩、水泳。

☆（学校で）いちばんだいじなのは、毎日のくらしに役だつことを覚えることです。

●19　詩画集きらわれカラス

　詩　：伊藤英高
　画　：赤司敬い子（ケイコ）
発行所：大日本図書
発行日：1996 年 11 月、1997 年 1 月　2 刷

【内容】
　横須賀市にある県立武山養護学校を卒業した著者が書いた詩。かがみ田苑に通っている。それも詩にしている。著者は自閉症。

☆＜お母さん＞ぼくが笑うと/お母さんも/うれしそうに/笑った。/ぼくがかんしゃくを/起こすと/お母さんは/悲しそうに/ぼくをみつめた/いつも/ぼくをみつめている/お母さん
☆＜ぼくだって人間です＞(詩)　＜生きてるってこと＞（詩）
☆＜ぼく達のかがみ田苑＞……みんな障害があっても/へっちゃらさ

●20　ぼくは海くんちのテーブル

作　者：西原敬冶(1952 年生)
　絵　：福田岩緒（1950 年生）
発行所：新日本出版社
発行日：2002 年 10 月

【内容】
　1 歳 7 か月の時重い障害を持つようになってしまった海くんちのテーブルが語る形の話。

☆待ちに待った海くんが家に帰ってきたのは、じこから二年たった冬のある日。小学一年生のひらくくん、五年生のあやのさんをはじめ、みんな大よろこび。六人そろってぼくをかこんで夕食だ。だけど、くいしんぼうだった海くんは、自分でのむことも食べることもできない。
☆海くんは、ぼくのすぐよこのベッドの上で一日をすごすようになった。おかあさんは、つきっきりで海くんのせわをしている。
☆「ひとりでも多くの人に海くんのことをしってもらいたい」というおかあさんのねがいにこたえて、このごろいろんな人が海くんにあいにやってくる。（養護学校の先生、入浴ヘルパー、絵本の読み聞かせや合唱の大学生ボランティアなど）

09　からすたろう

作　者：八島太郎
発行所：偕成社
発行日：1979 年５月。
　　1981 年２月　７刷。

【内容】

　ちびとよばれた小さい男の子は、男の先生をこわがり、クラスの子どもたちともちっとも友達にならなかった。ちびは、いろんなものを見つめ、耳にしてまわりからは、「うすのろ」とか「とんま」とか言われていたが、一日も学校を休まなかったから、皆勤賞をもらって卒業した。新しく来た礒辺先生は、そのちびが花や自然のことをよくしっているのに感心していた。学芸会でカラスの鳴き声を見事に演じたちびは、つらく当たっていた級友たちを泣かせ、観客を泣かせた。卒業後はみんな町で働くようになった。ちびも炭売りで山から町へ来た。みんなは「からすたろう」と彼のことを呼んだ。

☆（みんなからからす太郎と呼ばれるのを）きにいったというようにうなずいてはほほえむのでした。
☆そうして、おとなになりかけたかたをじまんげにはって、とおい山のいえにかえってゆくのでした。すると、山みちにさしかかるあたりから、からすのなきごえがきこえてくるのでした。――うれしくてたのしいなきごえが。

●21　さわる絵本＜新装版＞これ、なあに？

作　者：バージニア・イエンセン（1927 年生）
　　ドーカス・W・ハラー（1946 年生）
訳　者：きくしまいくえ(1951 年生)
発行所：偕成社
発行日：1979 年 12 月。1998 年４月　９刷。
　　2007 年 10 月　改訂１刷

【内容】

　すみ字で点々の主人公ザラザラくんが遊ぶ様子と書いている。友達はバラバラくん、ボツボツちゃん、シマシマくん、ツルツルくん。ラストはバラバラくんの家でお母さんにおいしいごちそうを食べさせてもらう。

☆これ、なあに？　（さわってごらんなさい）これはね、ザラザラくんですよ。ザラザラくんがひとりであそんでいるところなの。

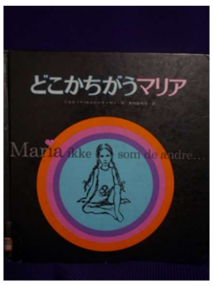
●22　ボクはじっとできない　自分で解決法をみつけた ADHD の男の子のはなし

作　者：バーバラ・エシャム　（本人も ADHD 的）
　絵　：マイク＆カール・ゴードン(父子)　　訳　：品川裕香
発行所：岩崎書店
発行日：2014 年 11 月

【内容】
　じっとできないデイヴィッドは、注意力・集中力もなく衝動的で、いつも授業の邪魔ばかりして、何をやっても先生に怒られてばかり。ある日、自分が失敗する理由に気づいた彼は、考えぬいて素晴らしい解決策を思いつく。それは、アイデアが浮かんでもすぐに行動に移さない様にすれば迷惑をかけないと気づき、どうしたら自分を律することができるかを考えた。自分は“じっとできない病”だ。「解決救急箱」から「注意・集中力向上カード」を出して机におけば集中しなきゃいけないことを思い出せる。例えば「集中して聴く」や「注意！」のカード。…パパも先生も子どものころ“じっとできない病”だった。

☆ボクが先生をイラつかせてることくらいわかってる。だけどどうやったらじっとしていられるかわからないんだ。
☆気をつけなきゃいけないのはボクにもクラスのみんなにもゴールスキー先生にもじゃまにならないほうほうを考えることだ。

●23　どこかちがうマリア



編　者：セルビーター・セン（1942.ｺﾍﾟﾝﾊｰｹﾞﾝ生）
　訳　：木村由利子
発行所：偕成社
発行日：1979 年８月

【内容】
　「きく耳きかい」を耳につけているマリアは５才。補聴器をつける前は、パパやママの話もよく聞こえず、友達もできなかったけれど、耳の不自由のためのセンターに行って検査し、補聴器をつけてからは大丈夫。でも、すぐそばまで行って話をしないとマリアには私たちの声が聞こえないことは覚えておくこと。

☆マリアは、もう悲しくありません。おかあさんはマリアがこなくてもしかったりせず、そ

ばまできてよんでくれます。するとマリアにはよく聞こえます。だって“きく耳きかい”がありますものね。

●24　車いすのレイチェル

作　者：エリザベス・ファンショー
　絵　：マイケル・チャールトン
訳　者　：邑田（むらた）晶子
発行所：偕成社
発行日：1980 年前後

【内容】

　イギリスで生まれた絵本。作者エリザベスは 10 才から車いす生活。だが両親から独立して庭つき家に住み車の運転もする。主人公レイチェルも車椅子生活だが、みんなと同じように学校に通い、ガールスカウトに入り、水泳を習い、将来の夢をたくさんもっている。

☆ときどき、友だちが車いすをおしてくれます。でも、ひとりでもへいきよ。
☆もうすこししたら、じょうばもならうつもりです。
☆大きくなったら何になりたいか、パパとよく話します。なりたいものがいろいろあって、まよっちゃうの。

●25　車いすのマティアス－脳性まひの障害とたたかう少年－　（写真と文章）

写真・文：トーマス・ベリイマン
訳　者　：石井登志子　　監　修：今宿晋作
発行所：偕成社
発行日：1990 年８月

【内容】

　スウェーデンのマティアスは６歳で、電動車いすを使用している。脳性まひのため、運動障害があり、耳も不自由。母は「目の前がまっ暗に」なったが、マティアスがとても明るかったので助けられた。物理療法を受け、いろいろな補助器具をつかうこともできるようになった。彼は、医者や理学療法士や言語訓練士や幼稚園や車いすの学校に行く。毎週日曜日にはプールにも行くし、スケートもやる。

☆マティアスは新しいことを習うと、とてもうれしくて、自慢してみせたくなります。お父さんが話してくれました。「新しい成長は、おやにとってもうれしいことなんです。われわれも子どもを育てながら多くのことを学んできました。どのような小さなできごとに

も感謝の気持ちをもつようになりましたし、それを、けっしてあたりまえとは思わないようになりました。」

●26　さわる絵本　＜新装版＞ちびまるのぼうけん

目の見えない子も見える子も　いっしょに楽しめる絵本

作　者：フィリップ・ヌート
発行所：山内清子(1981 年生)
発行日：1981 年３月初版　　1987 年２月　５刷
　　2007 年 10 月改訂 1 刷

【内容】

すみ字と点字による文章で進んでいくさわる絵本。主人公は冒険好きな「ちびまる」は 12 人の友達に別れを告げ、いろいろな形にであう。四角い 15 両の電車、三角たち、丸三角四角、真四角たち、半丸、長三角、などにあい、また 12 人の友達のところへ帰ってくる。

☆あるひ　ちびまるは、まだ　だれも　はいったことのない　この　ほんの　なかを　たんけんしてみることに　しました。あなたも　いっしょに　いきませんか。
ちびまるは、「みんな１れつにならんでよ。ぼくがせんとう。つぎがでかまる。みんなは、そのあとにつづいておくれ。これ、でんしゃだよ。ねえ、みんな、こんどはこうやってこのほんのたんけんにいこうよ」といいました。

●27　ぼく耳がきこえないんだ

作　者：フレディ・ブリーム(ニューヨーク生)
　絵　：マイケル・チャールトン(イギリス)
　訳　：邑田晶子
発行所：偕成社
発行日：1979 年

【内容】

　生まれつき耳の聞こえないマークは釣りをしていた時そこにいた少年たちからおこられるが、ママが説明してくれたので友達になった。マークは補聴器を使用している。

☆(ママ)「マークや、くちびるのうごきを見て、あなたがたのいうことを読みとろうとするわ。」
☆(ママ)「目できいているのよ。」

●28　だれがわたしたちをわかってくれるの　(写真と文章)

写真・文：トーマス・ベリイマン(1947 年スウェーデン生)
訳　者：ビヤネール多美子(1935 年生)
発行所：偕成社
発行日：1979 年１月
　　1980 年９月　４刷

【内容】
　二人の心身障害児の姉妹 7 才のアンナカーリンと 6 才のオーサの生活に 6 か月密着して写真を撮った。二人とも体を自由に動かせず、歩くこともよくできない。(姉は２才、妹は４才でよちよち歩き)　でも、うれしいこと、悲しいこと、つまらないことなどを感じる気持ちは健康なこと少しも変わらない。両親と 4 人で暮らしており、二人とも普通の保育園・幼稚園に通っている。二人は手話も習い、だんだん自分のことを伝えられるようになってきている。つまらないことは友達がいないこと。

☆障害児の問題について考え、知ることは、障害児に対してしぜんにふるまえるようになることなのです。(「はじめに」より)
☆アンナカーリンは、1 週間に 2 度、機能訓練をうけるために福祉タクシーに乗って病院に行きます。(一人で)
☆障害児たちが、人格をもったひとりの人間として成長し、進歩していく最良の条件は、障害児ではない子どもたちと、いっしょにそだつことなのです。

●29　盲導犬アンドリューの一日

作　者：　松井進　　絵：鈴木びんこ
発行所：　ポトス出版　　発行日：2002 年１１月

【内容】
　盲導犬の立場でその「仕事」や生活を話してくれる。どのようにして盲導犬になるのか、任務、ご主人との関係、ハーネスのこと、指示語のことなどからリタイアまで。(日本には 35 万人以上の目の不自由な人がいるが盲導犬はわずか９００匹。ドイツやアメリカには、1 万匹以上いる。)
☆　盲導犬というと、目の見えないご主人をひっぱって、あんないしてるように思うよね。でも、じつは、ご主人の指示どおりにあるいているだけなんだ。ぼくのしごとは、ご主人を安全にあんないすること。でかけるときは、いつもいっしょ。だからぼくらは、目のともだち「アイメイト」ともよばれるんだよ。

●30　ありがとう　シンシア　介助犬シンちゃんのおはなし　（写真と文章）

写真：小田哲明　　文：山本由花
発行所：講談社
発行日：1999 年６月

【内容】
　兵庫県宝塚市で、木村佳友さん・美智子さん夫婦と一緒に暮らしている介助犬と夫婦を写真にとったもの。
　結婚後間もなく交通事故で手の指や下半身が動かなくなってしまった佳友さんの安らぎを求めてペットとして飼われたが、トレーニングを受けて介助犬として帰宅した。その家族との生活を写真で追ったもの。（1999 年現在で日本に 830 頭以上）
　しかしまだ日本では認知度が低い。
☆　どこへいっても、木村さんとシンちゃんのまわりには、えがおの人たちでいっぱいです。こんなふうに介助犬が、体のふじゆうな人のためにかつやくすることが、あたりまえのよのなかになっていきますように。
☆　●シンちゃんのことばについて……シンちゃんにてつだってもらうときは、どうさを英語で、もののなまえを日本語でいいます。（盲導犬と同じ）　これは、どうさをあらわすことばは英語のほうが、かんたんなので犬にわかりやすいからです。

●31　耳がきこえないエイミーのねがい―わたしのことばは手話です　（写真と文章）

作：ルー・アン・ウォーカー
写真：マイケル・エブラムソン　　訳：森丘道
発行所：偕成社
発行年：1995 年２月

【内容】
　木のぼり、水泳、読書も映画も、スケボーも好きなエイミーは耳が聞こえないが、補聴器を付け、読唇（口話法）でみんなの言う事を理解し、話もする。通常クラスにいてかけっこはクラスー、友達もたくさんいる。友達に手話や指文字を教えたり、特別な仕掛けの電話でおしゃべりもする。そのエイミー（11 才）の生活を撮った写真集。両親は聴覚障害者、13 才の兄は聴こえる。

☆　ほら、みて。わたしは、木のぼりがだいすき。それから、ペットの動物たちのせわをするのも、すき。―わたしのペットは、うさぎのブラウン・アイズ、ねこのチェッカーズ、それにオウムのガーフィールド。あと金魚もいます。
　　この写真をいると、ね、わたしの補聴器がうつっているでしょう。

○10　パパと怒り鬼　―話してごらん、だれかに―

作：グロー・ダーレ　　絵：スヴァイン・ニーフース
共訳：大島かおり　青木順子
発行所：ひさかたチャイルド
発行年：2011 年８月

【内容】
　作者はノルウェーの人。DV 家庭の子どもたちの多くが家族の中で誰からも関心を寄せられず、援助も受けられない状態にいる。
この本の主人公ボイは、子どもたちの現実そのもの。本の中での王様がボイを訪ねるシーンは、すべての子どもが何らかの形で救いを求めることができるということを象徴的に表現しているそうだ。
　日本についての言及で「加害者が変わることが、最大の被害者支援になる」とある。

☆　ぼくは、ボイ。パパとママの３人でくらしている。でも、ぼくとママはいつもパパのきげんを気にしている。ある日のこと、パパのようすがおかしい。ママはぼくに「しずかにするのよ」って言う。パパどうしちゃったの。ぼくがなにかしたの？　パパ怒ってるの？

■１　ぶどう畑で見る夢は　こころみ学園の子どもたち

作：　小手鞠るい　　装画：中島梨絵
発行所：原書房
発行年：2018 年４月

【内容】
　足利市の山の斜面にぶどう畑を川田昇先生と特殊学級の子どもたちが開墾してから 11 年後の 1969（昭和 44）年 11 月 14 日、こころみ学園が「知的障害者のために入所厚生施設」として正式にスタート。園生は 30 名、職員 9 名。目標は、子どもたちと職員に差をつけない、できるだけ質素な暮らし、体を動かして働きながら心を育てる、地域の人たちと協力し助け合いながら生きていく。1980 年「有限会社ココ・ファーム・ワイナリー」創立。84 年からワイン作り。1995 年には 291 人でカリフォルニアのソノマに作ったぶどう畑への旅行。2000 年、2016 年と沖縄サミットや G7 でワインが使用された。実話。

☆川田先生の言葉―これまで、しいたけをつくり、ぶどうをつくり、おいしいワインをつくってきました。仕事が自然に流れるようになったら、あとは緑をつくること、山をつくること、きれいな水ときれいな空気を確保することに精魂を傾けたいと思います。

●32　みえるとか　みえないとか

作：オシタケシンスケ　　相談:伊藤亜紗
発行所：アリス館
発行日:2018.7　初版、2019.2　第７刷

【内容】
視覚を失うことによって生み出される体の特徴や、見えてくる世界のあり方と、意味を実感したいということで、空間・感覚・運動・言葉・ユーモアという５つの視点から、目の見えない人の世界の「見え方」を読み解く。(『(この本が)できるまで』より)

☆　ぼくはうちゅうひこうし。いろんなほしのちょうさをするのが、ぼくのしごとだ。このほしのひとたちは、うしろにも目があるのでまえもうしろもいちどにみえるらしい。～え？！　キミ、うしろがみえないの？　　えー？！ふべんじゃない？　かわいそう！

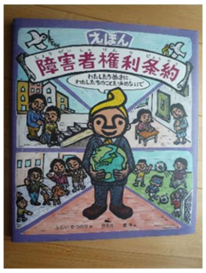
●33　自閉というぼくの世界

作：東田直樹　(1992 生)
絵:井村禮子
発行所：エスコアール出版部
発行日：2004 年９月　第１刷、2006 年２月　第２刷

【内容】
自閉症の作者の気持ち―みんなと違ってできないことがあったり叱られたりする中で、彼が悲しかったり怖かったりする気持ちや光や風と遊ぶことが心をおどらせることなどがわかる。見た目だけで判断されることの理不尽さや「普通」の人に近づくことが教育だと思われて障害のある子を追い詰めていることなどを指摘している。

☆　ぼくは少しみんなとはちがいます。そのことにさいしょに気づいたのは　ぼくが三才のころでした。みんなは自分の思ったことややりたいことを口で話しているのにぼくはどうやればそれが出来るのかぜんぜんわかりません。

●34　えほん障害者権利条約



作：ふじいかつのり　(1949 生)
絵：里　圭　(1977 生)
発行所：汐文社
発行日：2015 年５月

【内容】
2006 年に国連で採択された「障害者権利条約」のすばらしさを知ってほしいという思いで作られた。世界の人々のうち６人に１人はなんらかの障害があるとされている。障害のある人は特別な人間ではない。もっと身近なこととして考えたもらっていい。この条約がきちんと守られたらどうなるか、どんな素敵な社会になるか、などが書かれている。
権利条約が主人公として語っている形式になっている。

☆　ボクが日本に着くまでには、ずいぶんと時間がかかりました。
どうしてすぐに受けいれてくれなかったのでしょう？　それにはわけがあったのです。
「わたしたちぬきに、わたしたちのことを決めないで」障害のある人たちが立ちあがり、ボクが働きやすいように、準備をしてくれたのです。

●35　みんなでさわってレッツおえかき　でこぼこえかきうた

作：Mac-koba
発行所：NPO ユニバーサルデザイン絵本センター
発行日：2002 年８月　第１刷、
　　2010 年４月　第３刷

【内容】
「ブタのかお」と「チョキチョキカニ」の絵かき歌が絵とともにすみ字と点字でかかれている。絵もさわってわかるようになっている。

☆　チョキチョキカニ　１　むすびやまに　はるがきて
　　２　おはなの　つぼみも　ふくらんだ
　　３　ねっこもたくさんのびてきた
　　４　カニさんはさみできらないで
ブタのかお　１　まるいおさらにハンバーグ
　　２　とおくにみえるふたごやま
　　３　あながあくほどみていたら　　４　ニッコリわらったブタさんだ

●36　みえないって　どんなこと？　　(写真と文章)

写真・文:星川ひろ子　　構成:星川治雄
発行日：2002.11、2004.8　第６刷
発行所:岩崎書店
【内容】
遊びをいっぱい知っているスーさんが、視覚障がい者の女性めぐみさんを連れて保育(幼稚)園にやってきた。めぐみさんは児童館の先生。子どもたちは、盲導犬エルバのことを聞いたり、アイマスクをして見えない体験をしたりする。

☆「めでみなくても、はこのなかみがなんだかわかったね。にんげんはどうぶつだから、もともとかんじるちからをもっているんだ。めにたよっているとわすれてしまうけど、すばらしいちからがみんなにはあるんだよ。」とすーさんは、いいました。

●37　きみはきみだ　　(写真と文章)

文・写真：斉藤道雄
発行日：2010.11
発行所：子どもの未来社

【内容】
写真に写っているのは東京都品川区にある明晴学園のろう児たち。手話で話し、考え、自然に話をし、のびのび学校生活を送っている。聞こえないことは決して不幸なことでも、悲しむべきことでもない。聞こえることが当たり前とされる社会で、少しでも聞こえる子に近づこうとしていると、ろう児は自分の主人公になれない。手話が自分の言葉でありその言葉を使うのが自分の生き方なのだと納得したとき、そしてその生き方をみんなに認められたとき、ろう児は自分の主人公になった。写真に写っているのは、ろう児というより自分らしく生きるようになった子どもたちの顔です。（あとがきより）

☆おおぜいの友だちといっしょにいても　きみはきみだ
世界にたったひとり　きみであることのできる人は　きみしかいない
だれもきみのかわりにはなれない　それが、きみはきみだということだ

●38　算数の天才なのに計算ができない男の子のはなし　　**算数障害をしってますか？**

作　者：　バーバラ・エシャム
絵　：マイク＆カール・ドードン　　訳　：品川裕香
発行所：岩崎書店
発行日：2013 年７月

【内容】

計算問題ができないマックス・レオンハードは小学 3 年生。クラスのデヴィッドが「計算できない、マックス、マックス、バカックス！」とからかってくる。彼の算数ノートを見たシングルトン先生は、両親と彼を学校へ呼び、彼に数学選抜クラスにはいってもらうこと、学校の数学オリンピックチームのメンバーにもなってもらいたい旨を伝えた。パパも「どうやらお前は、算数の天才みたいなんだ。ダメもとでやってみればいいじゃないか。」と応援。親はこどもにとって最善の教師でもある。最善の教師とは、「他者の能力を最大限伸ばしてあげることができる人」のことを言う。（エドワード・ハロウェル博士より）

☆「マックスは九九みたいな算数のルールを覚えるのは苦手みたいですね。実は、そういう子どもや大人は少なくないんですよ。マックスは数の概念とか、数がどう関連しあうかなどがパッとわかるお子さんのようです。覚えて得のような計算問題は苦手でも、数の概念を理解し、分析して、判断するのは得意な人もいますので、これはあまり問題ではありません。それより、この年齢で代数の問題を理解できるということの方がすばらしい。」（シングルトン先生ー…部ひらがなを漢字に変換）

●39　おんちゃんは車イス司書

原案：河原正実（1948 生）
作・絵：梅田俊作(1942 生)
発行日：2006.8.
発行所：岩崎書店

【内容】

3 人合わせてテストの点数が 100 点というマサフミ・イッチャン・ケンチャンの町の図書館に日本で初めてという車いすの司書がやってきた。3 人はその司書＝おんちゃん＝カワハラさんを見るために図書館へやってきた。やがて 3 人の気持ちはかわっていく。「おんちゃんと話したあとって、なんでやろ、ぼくがぼくをだいすきなぼくに、なっとるんだわ・・・・」と。4 歳から 17 年間病院や施設で暮らしたおんちゃんの優しくて強い力は病院や施設で一緒に過ごした人たちや死に別れた人たちの夢や深い思いなのだ。
河原さんは、1985 年「ベトちゃんとドクちゃんの発達を願う会」事務局長になった。

☆「おんちゃんて、なにをするのもいっしょうけんめい」「ありがとうっていってくれる、あの赤んぼうみたいなわらい顔」「あれによわいんよ。なんか、自分でじぶんがすきになるような…」

●40　ヘレン・ケラーのかぎりない夢　見る・聞く・話す・読む・書く・学ぶ夢に挑戦した生涯

文：ドリーん・ラパポート
絵：マット・タヴァレス　　訳：もりうちすみこ
発行日:2014.8
発行所:国土社

【内容】
1880.6.27 に生まれたヘレンによる振り返りのような構成になっており、生い立ちや思い・考えがわかる。サリバン先生は、87.2 にヘレンの教師となってから 193610.20 死去するまで、ずっとヘレンと共に行動した。先生亡き後もたくさんの活動を続けたのは、先生の教育のおかげで、問題に立ち向かう強さと知識を身につけていたからだ。87 才で亡くなるまで国中、世界中を巡り、様々な人々に会い、はっきりと自分の意見を言い続けた。(戦争反対、児童労働反対、労働者の権利、女性の参政権、人種差別非難、障害者にも教育・職業を、など)

☆「わたしたちは、目や耳で考えるわけではありません。考える力は、見える聞こえるとは別の能力なのです」「わたしの中のどんな才能も、ひらめきも、よろこびも、すべて先生の手からあふれ出ることばによって、目ざめたのです」「障害とは、目が見えないことではありません。見えない人に対する見える人の態度こそが、障害なのです」

●41　６この点　点字を発明したルイ・ブライユのおはなし

文：ジェン・ブライアント
絵:ボリス・クリコフ　　訳：日当陽子
発行日：2017.8
発行所：岩崎書店

【内容】
幼いころパパの仕事道具のせんまいどおしを目にさしてしまったため失明したブライユは、家族の支援で歩いたり、ゲームをしたりした。学校に通いだしたが目の見えない子のための本がないため、それを読みたいと、王立盲学校へ入学。しかし、そこでも読みやすい本はなかったので、枠を使って穴をあけ、暗号を簡単にする方法を試した。彼が 15 才になった 1829 年遂に完成させることができた。パリの王立盲学校では点字を使い始め、公式採用は 1854 年(死後２年)。ルイはチェロとオルガンをマスター。卒業後は 1833 年から正式の教師となり歴史、文法、地理、数学を教えた。

☆ぼくは、まどのそばにすわり、目で見るかわりに、耳をすました。/ぼくのかぞくは、できるかぎりのことを、してくれた。/　ぼくはみんなに、きのどくだと、おもってほしくなかった。ただ、ほかの子のように、じぶんでよんだりかいたり、したいだけだった。

●42　耳の聞こえないメジャーリーガー　ウィリアム・ホイ

作　者：ナンシー・チャーニン
　絵　：ジェズ・ツヤ　　訳：斉藤洋
発行所：光村教育図書
発行日：2016 年 10 月第 1 刷、　2017 年 4 月第 2 刷
【内容】
　耳の聞こえないウィリアムはオハイオ州立ろう学校の代表の野球選手になりたかったので毎日一生懸命練習した。卒業して靴修理店で働いているときたまたま投げたボールの手ごたえに、「うちのチームに入って」との誘いがあり入ったが手話ができる人がいないので退団。聞こえないために三振がわからず笑われたりしたが、絵でボールとストライクのジェスチャーを審判に示したらそれが採用された。作戦を伝えるサインもチームメイトに教えた。彼は学校代表にはなれなかったが、いろいろなメジャーリーグの選手になった。
☆審判のジェスチャーや、選手のサインプレーなど、それまでになかったことが、試合でおこなわれるようになったということ。それはウィリアムのおかげです。ウィリアムの努力で、試合のやりかたがかわったということです。そんなことをだれが想像したでしょうか

○11　みんなからみえないブライアン

　作：トルーディ・ラドウィッグ
　絵：パトリス・バートン
　訳：さくまゆみこ
発行：2015.6
発行所：くもん出版
【内容】
　人間は社会的な生き物なので、ほかの人たちとつながりを持って生きていきたいと思うものです。みんなから見えない存在でいるのは、いやなものです。とくに、静かで内気で繊細な子どもが、仲間に入ればできることはたくさんあるのに、しばしば気づかれなかったり、無視されたりするのは、つらいものです。でも、その子が自分もかけがえのない存在だと感じるためには、だれか一人が手を差し伸べればいいのです。(作者のことばより)
☆　ブライアンはめだたない。カーロッティせんせいにだってめみえなくなることがある。ネイサンやソフィのほうに、どうしてもめがいくからね。/(転校生のジャスティンがきた)「せんせいは、ふたりぐみかさんにんぐみっていったんだ。ねえ、エミリオ、さんにんぐみにやろうよ。」(とジャスティンがブライアンも誘ってくれたため、3 人は友達に！) もしかしたら、ブライアンはもうみんなからみえるようになったのかもしれないね。

●43　サリバン先生とヘレンーふたりの奇跡の４か月ー

作　者：　デボラ・ホプキンソン
　絵　：　ラウル・コローン　　訳：こだまともこ
発行所：　光村教育図書
発行日：2016 年８月
【内容】
1887 年３月６日、21 歳のアニー・サリバンがケラー家に６歳のヘレンの家庭教師として赴任した日からの手紙と補足的な話によって構成されている。アニーはボストンのパーキンズ盲学校の寮母ホプキンズ夫人とともに 14 歳から卒業するまで過ごしたので、夫人は母親のような存在。その人への手紙だ。1887 年４月５日に「水」によって指文字とその意味が分かったヘレンに対して、アニーは周りの世界を次々と指文字でヘレンの手に話しかけ、「考える」という抽象的なことまでつづっていった。1887 年６月 19 日には 400 の言葉を知り、本の読み方を知り、文章を作れるようになり、点字も教わったヘレンは、母に手紙を書いた。
☆1887 年７月 12 日　ヘレンが、初めて家に送った手紙です。――ヘレンはおかあさんにてがみをかきます　パパはヘレンにくすりをくれました　ミルドレッドはブランコにのっているでしょう　ミルドレッドはヘレンにキスをしました　せんせいはヘレンにももをくれました　ジョージはうでをけがしています　　…(略)…　ヘレンはおかあさんにだきついてキスをするでしょう　ヘレンはうちにかえるでしょう　…

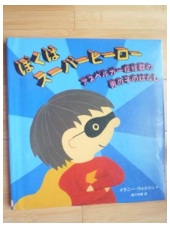
●44　えらいぞサーブ！　主人をたすけた盲導犬

作　者：手島悠介 1935
　絵　：徳田秀雄　1948
発行所：講談社
発行日：2000 年４月
【内容】
シェパードのサーブはつとむとゆかりの家で大人になるまで育てられ、盲導犬協会で７か月間訓練をした後、10 年間も待っていたマッサージ師の亀山さん夫妻(二人とも目が不自由)と暮らすようになった。ある雪の夜、目の前に突っ込んできた乗用車から亀山さんを守ろうと、サーブは車に向かってとびかかっていった。亀山さんは助かったが、サーブは左前脚を切断。国会で歩道設置を訴えた亀山さんは、「サーブにテキサス州名誉犬」を送りたいとテキサス州知事から招待された。JR 名古屋駅前にはサーブの銅像もたった。1988 年６月 13 日 11 歳のサーブは死んだ。
☆サーブにあいたくて、かめやまさんごふさいがきょうかいにやってきました。３本足のサーブは、よろよろとたおれながらもふたりにとびついてきました。かめやまさんはサーブにほおずりしてなきました。「ぼくのためにこんなからだになってゆるしておくれ。」

●45　指で見る　　**ぼく、どんな顔しているのかなあ。さわれる鏡があればいいなあ。**

写真/文 トーマス・ベリイマン（スウェーデン）
訳　者： ピヤネール多美子
発行所： 偕成社
発行日：1977 年 12 月　1 刷、1978 年 1 月　2 刷。
【内容】
目の不自由な子どもたちがどのように見ているかを紹介している。作者は半年間子どもたち 21 人と寄宿舎生活を共にし、子どもたちのいろいろな意見を参考にしながら撮影した。子どもたちとの会話をテープ録音してその一部をそのまま紹介している。子どもたち自身から目の見えない世界や暮らし方、なぜ目が見えなくなったのか、自分自身の顔のこと、好きなことや色、困ることなりたい職業や気持ちなどを話してもらっている。
☆アンダーシュ(9 才)/ぼくは、杖をつく。トーマス/杖って何か役に立ってるの？アンダーシュ/うん。杖は長い指みたいなもので、杖でものが見えるんだ。ぼくが何かにぶつかりそうになると、杖が教えてくれるんだよ。だから、前の方で感じることができるんだ。杖を右、左について、右がわの足をだしたときは、反対の左がわに杖をつくのさ。
(未来をどう思うか？→)生きるということは楽しいよ。
☆ヨルゲン/みんながもっと、身障者に関心をもつべきだよ。

●46　ぼくはスーパーヒーロー　アスペルガー症候群の男の子のはなし



作　者： メラニー・ウォルシュ
訳　者：品川裕香
発行所：岩崎書店
発行日：2017 年 1 月
【内容】
アイザックの一人称の語りで構成されている話。彼はアスペルガー症候群で、「特別な脳みそ」をもつ「スーパーヒーロー」だ。好きなことならいくらでも話せる、トランポリン大好き、ペットといると安心し、思ったことをすぐ言ってしまう、音がよく聞こえる、人の目を見るのが怖い、等々自分自身の特徴を子どもらしい言い方で伝えてくれる。
☆きみはぼくがほんもののスーパーヒーローだとおもった？　ほんとはちがうんだ。アスペルガーなんだ。(アスペルガーってハンバーガーとおとがにてるよね)　みためじゃわからないかもしれない。のうのはたらきかたがふつうのひととちょっとちがうだけだから。でもさ、おにいちゃんとスーパーヒーローごっこをしてあそぶのはだいすきだよ。おにいちゃんはアスペルガーのぼくのことよくわかってくれてるから。　これできみもぼくのことわかってくれたよね！

■２　ぼくのお姉さん

作　者：丘　修三（1941 年生）
　絵　：かみやしん(上矢津　1942)
発行所：偕成社
発行日：1986 年 12 月
【内容】
　<はじめに>にある「人生は、たのしいもの。けれども、くるしいことやかなしいことや、心をなやますことも　また、たくさんあります。人は、そのようなさまざまなことを体験しながら、ほんとうの〈人間〉になるのだと思います。ひとの心のいたみがわかる〈人間〉に。」――どの作品も主人公の子どもたちは障がい児・者とのふれあいの中で、悩みや悲しみを経験し、心に確実に〈人間〉になるために大切なことを蓄積していく。「ぼくのお姉さん」「歯型」「あざ」「首かざり」「こおろぎ」「ワシントンポスト・マーチ」の短編６つ。
☆あそこ(福祉作業所)で、九時から四時半まではたらくのだ。そうやってもらった給料なのだという。その給料で、ぼくたちに食事をごちそうしてくれるというのだ。ぼくは封筒の中身が気になった。いったい、いくらはいっているのだろう。お父さんは、うつむいたままのお母さんに声をかけた。「さあ、ママ、ごちそうになろうじゃないか。」お母さんは、ハンカチで目頭をおさえた。「ママ、ないたらめよ（ないちゃだめよ)。」お姉ちゃんは、しんぱいそうに顔をのぞきこんだ。お母さんがなぜないているのか、わからなかったにちがいない。(「ぼくのお姉さん」)

●47　ゆいちゃんのエアメール

文・写真：　星川ひろ子(1950 年生)
発行所：　小学館
発行日：2001 年６月
【内容】
　耳の不自由なゆいちゃんと著者が出会ったのがゆいちゃん小学３年生のとき。４年生の秋から６年生の春にかけて、仲良しの恵美子ちゃんがアメリカに行ってしまった。二人はエアメールのやりとりをしていた。それを基にして著者が創作した作品。
☆　ゆいちゃんは耳が不自由な少女です。うしろから来た車がクラクションをならしても、よけることができません。補聴器をつけても、ゆいちゃんの耳には届かないのです。でも、ゆいちゃんは、口の動きでことばを読むことができます。発音の練習をたくさんので、話せるようにもなりました。
☆　恵美子ちゃんへ/　お元気ですか？　アメリカでの生活は、もうなれましたか？　私は、５年生になってクラスが変わり、１組になりました。…

●48　やあ、すてきななかまたち！

作　者：トゥリシア・ブラウン(1944 生)
写　真：　フラン・オーティス(1931 生)、
訳　者：偕成社編集部、　　解　説：最首悟
発行所：偕成社
発行日：1995 年８月

【内容】
「子どもが障害のある友だちと自然に出会えるための『心の準備の本』」として作者と写真家フランが制作しはじめたが、「進むにつれ、この本は、『子ども』や『障害』という枠を越えたすべての人間について語っているのだということに」気づいた。～はじめにより～
　作者が息子の通っている幼稚園で出会った障害をもつ小さな女の子にであったことからいろいろな人が一緒に生きているという当たり前のことを子どもたちにも大人にも考えてほしい、という思いで作られている。

☆この子は目はみえないけれど、手でさわってちゃんとみようとしている。この子はね、鼻をくんくん、いいのい。そおっと手でさわってすてきな花だってこともわかるんだ。
☆こんなふうに、ちがうところがちょっとずつあるけれど、プールや海でおよいだり、はくぶつかんにいったり、すいぞくかんでイルカにあったりするのが、みんな大すき！

●49　　ちえちゃんの卒業式

文・写真：星川ひろ子(1950 生)
発行所：　小学館
発行日：2000 年 10 月

【内容】
わずか 715 グラムで生まれたちえちゃんが、お母さんと自分の幼いころから今までのことを振り返る。１年生から３年生まではお母さんが学校につきそっていた。休み時間にはおんぶされてドッジボールをやった。ウォーカーで買い物にいったこと、乗りやすい自転車をつくってもらったこと、独りぼっちだと感じていた時先生がクラスで話し合いをもってくれたら、みんながやさしくなったこと、そして生んでくれたお母さんへの感謝。

☆あれから(話し合いから)、みんなやさしくなった。心のつらさが、すこしずつ消えていく。運動会の日、みんなと同じきょりを、ウォーカーで走った。もちろんびりだったけど、すごくうれしかった。＜あたしだって、できる！＞そんな気がした。

●50　ぼくたちのコンニャク先生

写真・文：星川ひろ子
発行所：小学館
発行日：1996 年２月

【内容】
近藤先生は保育園の先生だが、脳性マヒのため走れないし、ごはんをこぼすし、しゃべるのも苦手みたい…でも子どもたちと仲良しだ。子どもの語り口調で先生を紹介している。

☆おでんがおやつのときだれかがいったんだ。こんどうコンニャクコンニャク先生ってね。
☆ごはんのとき手がふるえて赤ちゃんみたいにこぼしちゃうんだ。しゃべるのもにがてみたい。どうしてかなぁ。ぼくね、せんせいにきいてみたんだ。ねえ、どうして？
☆せんせいはね、生まれたときのうせいまひっていうのになったんだ。それ、びょうき？びょうきじゃないけど、けがみたいなもんかなあ。なおらないの？うん。でもね、ほいくえんにきてからとってもげんきになったんだよ。

●51　となりのしげちゃん

著　者：星川ひろ子
発行所:小学館
発行日:1999 年９月

【内容】
ダウン症児の息子しげきが生まれた時母親の岩本聖子さんは、ダウン症を含め、その子が持ついろいろな部分を引き出しながら安心して暮らし合っていけるという見通し、道しるべのようなものを求めていた。著者星川さんと話しているうちに「道しるべがなければ作ってしまおう」とこの写真絵本が生まれた。
☆「ねえ、しげちゃんのおかあさん」「なあに、あーちゃん」あらたちゃんは、ずーっと気になっていたことをきょうこそ聞いてみようと思いました。
「なんで、しげちゃん、せみ組のみんなみたいにおしゃべりしないの？びょうきなの？」「ううん、びょうきじゃないのよ。そのうちきっと、しゃべってくれると思うの。なんでもゆっくりおぼえていくから」「どうして、ゆっくりなの？」「そうだなぁ。みんなおとうさんとおかあさんから、体を作るための地図をもらって生まれてくるんだけど、しげきは、その中にちょっとおまけのところがあってねぇ、それで、おにいちゃんになるのに、時間がかかっちゃうんだ」「へぇー、そうなの」「でもねぇ、かんじる心は、しげきもみんなといっしょよ」「そうかぁ」あらたちゃんは、なんだかほっとしました。

●52　おねえちゃんとわたし

作：ミッシェル・エマート
絵：ゲイル・オーウェン
訳：岡田なおこ、太田真智子　　日本語版監修：山田真
発行所：小学館
発行日：1999 年２月

【内容】
「障害や病気を持つ子どもに対して偏見や差別が生まれる景気があるとすれば、それはそういう子どもたちが「特別な存在」であると考えることでしょう。見た目は少しちがっているとしても、ふつうの子どもなのであり、まわりの人はふつうにつきあえばよいのです。しかし、ふつうに自然につきあうということが大人にはなかなかむずかしい。子どものうちに障害を持つ子どもと共に生活する経験を持てば、自然なつきあいができるようになります。この本はそのための参考になります。」（山田真）　エイミーは脳性マヒ。
☆エイミーが５さいのときに、わたしが生まれました。わたしとエイミーはこんなふうにならんでねていたのよ。エイミーはあかちゃんだったわたしとおなじように、いろんな声や音を出しました。だからとなりにいるとたのしくて、安心していられたの。あかちゃんだったわたしは、エイミーがよそのおねえさんとはちがうって、気づかなかったわ。
☆わたしの体はどんどん大きくなっていくのに、エイミーは少しずつしか大きくなりません。いま、エイミーは１４さいだけど、５さいか６さいにしか見えません。わたしは９さいだけど、エイミーをだっこできるようになりました。

●　ゆめのおはなしきいてエなあ

作　者:吉村敬子
　絵　：佐々木麻子
発行所：偕成社
発行日：年月

【内容】
　手足に障害を持つ著者が夢の中で男の子と出会い、手のこと足のことを語り合う。
☆

＜＜題名一覧＞＞

●1　ふしぎなともだち
●2　私の足は車いす
●3　なまけてなんかない　ディスレクシアの男の子のはなし
●4　かたあしだちょうのエルフ
●5　福祉紙しばい　白いつえのおじいさん
●6　ベルナの目はななえさんの目
●7　わたしたち手で話します
●8　ボスがきた
●9　こわいことなんかあらへん
●10　海くん、おはよう　（絵本ではない。写真と文章）
●11　千曲川のほとりで～私の学童疎開、上山田ホテル～
●12　わたし　いややねん
●13　わたしたちのトビアス
●14　わたしたちのトビアス　大きくなる
●15　さっちゃんのまほうの手
●16　わたし、耳がきこえないの
●17　みんなみんなぼくのともだち
●18　わたしたちのトビアス学校へいく
●19　詩画集きらわれカラス
●20　ぼくは海くんちのテーブル
●21　さわる絵本＜新装版＞これ、なあに？
●22　ボクはじっとできない　自分で解決法をみつけた ADHD の男の子のはなし
●23　どこかちがうマリア
●24　車いすのレイチェル
●25　車いすのマティアス―脳性まひとたたかう少年―
●26　さわる絵本　＜新装版＞ちびまるのぼうけん
　　目の見えない子も見える子も　いっしょに楽しめる絵本
●27　ぼく耳がきこえないんだ
●28　だれがわたしたちをわかってくれるの
●29　盲導犬アンドリューの一日
●30　ありがとう　シンシア　介助犬シンちゃんのおはなし
●31　耳がきこえないエイミーのねがい―わたしのことばは手話です
●32　みえるとか　みえないとか
●33　自閉というぼくの世界

●34　えほん障害者権利条約
●35　みんなでさわってレッツおえかき　でこぼこえかきうた
●36　みえないって　どんなこと？　　(写真と文章)
●37　きみはきみだ　　(写真と文章)
●38　算数の天才なのに計算ができない男の子のはなし
●39　おんちゃんは車イス司書
●40　ヘレン・ケラーのかぎりない夢　　見る・聞く・話す・読む・書く・学ぶ夢に挑戦した生涯
●41　６この点　　点字を発明したルイ・ブライユのおはなし
●42　耳の聞こえないメジャーリーガー　ウィリアム・ホイ
●43　サリバン先生とヘレンーふたりの奇跡の４か月―
●44　えらいぞサーブ！　主人をたすけた盲導犬
●45　指で見る
●46　ぼくはスーパーヒーロー　アスペルガー症候群の男の子のはなし
●47　ゆめのおはなしきいてエなあ

○1　おかあさんげんきですか
○2　かっくん　どうしてボクだけしかくいの？
○3　びょういんの木
○4　いい子のなれっていわないで
○5　みんなともだち
○6　中田くん、うちゅうまで行こ！
○7　ともだちのつくりかた
○8　わたしのひみつ
○9　からすたろう
○10　パパと怒り鬼　―話してごらん、だれかにー
○11　みんなからみえないブライアン

■1　ぶどう畑で見る夢は　こころみ学園の子どもたち
■2　ぼくのお姉さん